

原 著

看護婦の専門的自律に関する研究

その 3 - 依存性, 開き直り度, 独立意識の専門的自律度への影響 -

川西千恵美¹⁾, 高間 静子²⁾, 塚原 節子³⁾

¹⁾ 富山医科薬科大学医学部看護学科成人看護学教室

²⁾ 富山医科薬科大学医学部看護学科基礎看護学教室

³⁾ 富山医科薬科大学附属病院看護部

A study of nursing autonomy

Part 3 - The influence of their dependency, spirit of independence, and defiant attitude on the nurses' professional autonomy -

Chiemi KAWANISHI¹⁾, Shizuko TAKAMA²⁾, Setsuko TSUKAHARA³⁾

¹⁾ Department of Adult Nursing, School of Nursing, Faculty of Medicine, Toyama Medical and Pharmaceutical University, Toyama 930-01, Japan

²⁾ Department of Foudamental Nursing, School of Nursing, Faculty of Medicine, Toyama Medical and Pharmaceutical University, Toyama 930-01, Japan

³⁾ Department of Nursing, Toyama Medical and Pharmaceutical University Hospital, Toyama 930-01, Japan

Key words : nursing autonomy, dependency, spirit of independence, defiant attitude

要 旨

富山県内の公立病院で就労する看護婦161名を対象に質問紙留置法で, Pankratz Nursing Questionnaire と依存性尺度, 開き直り度尺度, 独立意識尺度を用いて, 個人の依存性, 開き直り度, 独立意識の看護婦の専門的自律度への影響を検討した。その結果, 以下のことが明かになった。

1) 専門的自律度が高い人は, 依存性の中の他人に依存する道具的依存性が低い。

2) 看護婦の柔軟な姿勢を示す専門的自律度が高

い人は, 開き直り態度をもっている。

3) 専門的自律度が高い人は, 独立意識が高い。

はじめに

専門職としての自律度とは「その職業において職業人としての自分自身を知り, 自らの価値観, 判断に基づき, 選択決定でき, その決定に対し自他の関係をわきまえながら責任をもって行動できること。専門職であるための必要不可欠な要件であり, 本質的な要件である」¹⁾と定義されている。

我々は, これまで看護婦の経験年数・職階などの

違いによって専門的自律度がどのように異なるか調査²⁾をしてきた。既に、教育背景や職務満足度と専門的自律度との関係についての研究³⁻⁵⁾が行われ、高学歴の人が専門的自律度の得点が高い結果などが報告されている。しかし、看護婦の専門職としての自律度とパーソナルシステムとの関係に関する報告は極めて少ない。

そこで、本研究では、看護婦の専門的自律度に対する、依存性、独立意識、開き直り態度の影響を明かにすることを試みた。

対象および方法

対象は、富山県内の6公立病院で働く看護婦161名で、その詳細は「専門的自律に関する研究その1」⁶⁾に述べた。

測定用具は、専門的自律度測定には志自岐⁵⁾が日本版にした Pankratz Nursing Questionnaire⁷⁾ (以下 PNQ と略す) を用いた。依存性の測定には辻⁸⁾の依存性尺度を用い、開き直り度の測定には宗像⁹⁾の開き直り度尺度を用いた。独立意識の測定には、加藤ら¹⁰⁾の独立意識尺度を使用した。

調査方法、期間、データの分析は、「専門的自律に関する研究その1」⁶⁾で述べた。

結 果

専門的自律度と開き直り度、依存性、独立意

識との関係を table 1 に示した。PNQ1 と開き直り度との間には有意な相関があった。PNQ3 と依存性の下位概念の「自己の欲求または課題実現のために他人に依存する道具的依存性」との間には有意な相関があった。PNQ すべてにおいて独立意識の下位概念の独立性との間に有意な相関があった。

年齢別にみた PNQ2 と依存性との関係を table 2

Table 2 Relations between nursing autonomy and dependency in each age group

Components	n	Dependency		
		Instrumental dependency	Emotional dependency	Dependency total
PNQ2 25yrs.or younger	55	-0.038	-0.054	0.045
26-30yrs.	23	-0.186	0.270	0.063
31-40yrs.	63	0.278**	0.839**	0.286*
41yrs.or older	20	-0.127	0.544*	-0.228

Partial correlation coefficient *p<0.05, **p<0.01

Table 3 Relations between nursing autonomy and dependency in each career ladder

Components	n	Dependency		
		Instrumental dependency	Emotional dependency	Dependency total
PNQ3 Nurse	142	0.057	0.712**	-0.233**
Manager	19	0.102	0.638**	-0.187

Partial correlation coefficient **p<0.01

Table 1 Relationships between nursing autonomy, and each of defiant attitude, dependency, and spirit of independence

Components	Defiant attitude	Dependency			Spirit of independence		
		Instrumental dependency	Emotional dependency	Dependency total	Independ- ency	Dependency to parent	Opposition Internal conflict
PNQ1	0.171*	-0.147	0.021	-0.083	0.195*	-0.123	-0.017
PNQ2	0.093	-0.034	0.005	-0.019	0.244**	-0.057	-0.099
PNQ3	0.054	-0.230**	0.015	-0.142	0.188*	0.081	-0.204**
PNQtotal	0.147	-0.170*	0.017	-0.010	0.265**	-0.063	-0.115

Partial correlation coefficient *p<0.05, **p<0.01

に示した。31～40歳群においてのみ PNQ2 と依存性合計との間に有意な正の相関があったが、他の年齢群にはみられなかったことが特徴的であった。

職階別にみた PNQ3 と依存性の関係を table3 に示した。職階別にみると、看護婦にのみ PNQ3 と依存性合計との間に有意な負の相関があった。婦長でも負の相関はみられたが、有意差はなかった。

考 察

PNQ の下位尺度のうち、PNQ1 は看護婦の専門職としてイニシアティブ、責任をとることを好ましいと自覚している程度、および患者に対する柔軟な態度や病院管理のために患者の権利が剥奪されないようにする看護婦の柔軟な態度を測定している。

PNQ1 と開き直り度との間に有意な正の相関がみられたことは、柔軟な態度を持っている人が開き直り態度を持っているということである。開き直り態度はストレスを慢性化する人間関係の悪化を防ぐことができる⁹⁾と言われている。具体的には、都合が悪いときにはその理由を感情的にはなく、冷静に現実的に相手に伝え、自分と相手がそれなりに満足できるように妥協・調整する関係をつくることができる。そのような態度を持っていることが柔軟な姿勢となって表われていたとみなされる。何人かいれば中には私のことを嫌う人もいる、それが普通だと考えられる人は、患者や病院管理に対しても柔軟な態度で対処できることになる。

PNQ2 は、看護婦が患者の権利をどの程度認めているか、および患者に対しどの程度自由を認めているかについて測定している。専門職である看護婦は自律していることが不可欠で、依存性は低いことが望ましいと考えられるが、PNQ2 と依存性との関係を年齢別にみると、31～40歳群においてのみ PNQ2 と依存性合計との間に有意な正の相関がみられた。田尾¹¹⁾は看護婦の自律性は勤続10年以降に高くなると報告している。この結果は、今回の調査と矛盾するようであるが、15年前の報告であるので、10年の臨床経験で婦長になれた時代だと思われ、経験年数のみでなく職階の影響も受けていると考えられる。1990年代になると、佐藤¹²⁾も自律は必ずしも経験年数と一致していないと述べている。

また、31～40歳の時期は、看護の技術の熟練の度合いを5段階に分類した Benner¹³⁾ の「中堅」にあたる時期と考えられる。しかし中堅は誰でもがなれるものではないと述べてられていることから、今回の対象者は、専門的成熟が加わった反面、育児の負担¹⁴⁾などで依存傾向が高まっていて中堅のレベルに達していなかった可能性が大きい。その結果、患者権利の尊重をより認められる人は依存性が高くなったとみなされる。

PNQ3 は、医師との意見の不一致や患者の個人的な事柄に関する看護婦の積極性を測定している。職階別にみた時、婦長・看護婦ともに PNQ3 と依存性の情動的依存性との間に有意な高い相関が得られた。依存性は自己の欲求課題実現のために他人に依存する道具的依存性と心情的安定を他人との接触に求める情動的依存性がある。自己ないし社会への適応という視点からは、道具的依存性が小で情動的依存性が大きい方が好ましいという報告⁸⁾があるように専門的自律度との関係が、このように道具的依存性が低く、情動的依存性が高いという結果であったことは、適応という視点からみると妥当と思われる。

依存性合計において、看護婦にのみ有意な負の相関がみられた。積極性を示す PNQ3 で負の相関がみられたことは、積極性が高い人ほど依存性が低いという結果であり、依存してないことが専門職として自律性を保持できると考えられる。婦長でも負の関係はみられたが、対象者数が少なかったため有意差は認められなかったと思われる。

また PNQ3 は、道具的依存性との間に有意な負の相関がみられた。伝統的な役割限定への拒絶が高い人は、道具的依存性が低いという結果から、他人に頼らず伝統的な役割も拒絶できる自律性を持っているとみなされ、専門職としては望ましいと考えられる。宮本¹⁵⁾は、「看護部門全体としての自律は看護者が医師との関係においてどれくらい自己主張できるかによるところが大きい」と述べているが、看護者が人に依存せず、自己決定でき看護を行うことのできる職場環境があれば、専門的自律性がより促進されると考えられる。

PNQ すべてにおいて、独立意識の下位概念の独立性との間に有意な正の相関がみられた。これは、専門的自律度が高い人は独立性が高いことを示して

いる。責任ある自律した行動をとるためには意識の独立が必要である。個人の自律性の上に専門的自律性が形成されると考えられていることから、今回の結果は妥当な結果であったと考えられる。何かに依存したり反抗したり、上下関係が消えないうちは独立しているとはいえないので、独立性は専門的自律度に大きく影響していると考えられる。

以上のことから、個人の依存性、独立意識、開き直り態度は、看護婦の専門的自律度に明かに影響することが判明した。

文 献

- 1) 香春知永：看護教育プログラムの評価。看護研究 **23**：77-88, 1990.
- 2) 塚原節子, 上野栄一, 高間静子：看護婦の専門的自律度と就業背景との関係。日本看護研究学会雑誌 **18**：47-48, 1995.
- 3) Mitchell M. K. : The power of standards-the glory days of nursing yet to come? : Nurs. Health Care **10**：306-309, 1989.
- 4) Cassidy L.F. and Oddi L.F.: Professional autonomy and ethical decision making among graduate and undergraduate nursing majors. J. Nurs. Educ. **27**：405-410, 1988.
- 5) 志自岐康子：看護婦の専門職的自律性と関連する因子の分析。第13回日本看護科学学会講演集 **13**：54-55, 1993.
- 6) 高間静子, 川西千恵美, 塚原節子, 他：看護婦の専門的自律に関する研究その1 - 就労姿勢の専門的自律度への影響 -。富山医科薬科大学医学雑誌. **9**：55-60, 1996.
- 7) Pankratz L. and Pankraty D.: Nursing autonomy and patient' rights : Development of a nursing attitude scale. J. Health Soc. Behav. **15**：211-216, 1974.
- 8) 辻正三：「依存性テスト」の検討。都立大人文学報 **67**：11-23, 1969.
- 9) 宗像恒次：日本人のストレス対処の特徴。ナー
スプラスワン **11**：28-35, 1992.
- 10) 加藤隆勝, 高木秀明：青年期における独立意識の発達と自己概念との関係。教育心理学研究 **28**：336-340, 1980.
- 11) 田尾雅夫：看護婦におけるプロフェッショナルリズムの態度構造, 病院管理 **17**：43-50, 1980.
- 12) 佐藤紀子：エキスパートナース論序説-新しい婦長像を求めて。ナースステーション **20**：137-145, 1990.
- 13) Benner P., Tanner. and Chesla C.: From beginner to expert: gaining a differentiated clinical world in critical care nursing. ANS Adv. Nurs. Sci. **14**：313-328, 1992.
- 14) 鈴木和美：中堅ナースとしての自己認識の成長-ジレンマを越えて。ナースステーション **19**：14-20, 1989.
- 15) 宮本真巳：看護職の自律と看護体制-受け持ち患者をめぐる-。心と社会 **61**：79-92, 1990.

Summary

The influence of their dependency, spirit of independence, and defiant attitude on the nurses' professional autonomy was examined in this study. A sample consisted of 161 nurses working in six public hospitals of Toyama prefecture. The instruments were the Japanese version of Pankratz Nursing Questionnaire, and Dependency Scale, Spirit of Independence Scale, Defiant Attitude Scale.

The results were as follows; 1) nursing autonomy (rejection of traditional role limitation) was negatively correlated with instrumental dependency, 2) nursing autonomy (nursing autonomy and advocacy) was positively correlated with defiant attitude, and 3) nursing autonomy was positively correlated with spirit of independence.